

## 損保ジャパン-T CW・ MBSオープン (DC年金) Bコース (為替ヘッジなし) 〈愛称〉 こむぎ畑 (DC年金)

最終期 (償還日 2017年11月2日)

### ■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2005年9月26日から2017年11月2日まで (当初、無期限)	
運用方針	<p>①高格付の米国ドル建て住宅ローン債権担保証券 (モーゲージ証券、MBS) を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目指して積極的な運用を行います。MBSは、主として住宅ローンを担保に発行された証券です。</p> <p>②実質的な投資対象証券は、米国政府または米国政府系機関保証のもの、またはAA格相当以上の長期格付が付与されている民間発行のものに限ります。また、ポートフォリオの平均格付は高位に維持することを目指し、信用リスクの低減に努めます。</p> <p>③マザーファンドの米国ドルベースの運用は、ブルームバーグ・パークレイズ米国MBSインデックスを上回る収益率の獲得およびリスクの分散を図ることを目指します。なおマザーファンドの米国ドル建てMBS運用にかかる権限を、TCW INVESTMENT MANAGEMENT COMPANYに委託します。</p>	
主要投資対象	損保ジャパン-T CW・MBSオープン (DC年金) Bコース (為替ヘッジなし)	損保ジャパン-T CW・MBSマザーファンド
	損保ジャパン-T CW・MBSマザーファンド	米国ドル建のMBS
主な組入制限	損保ジャパン-T CW・MBSオープン (DC年金) Bコース (為替ヘッジなし)	<p>MBSの投資において、パススルー証券の元本と金利部分を分離して発行されたPOおよびIOの実質投資割合は、取得時において各々純資産総額の5%以内とします。</p> <p>CMOの一種で、クーポンが一定の条件式に従って指標となる市場金利等の動きとは逆の方向に変動するインバース・フローターの実質投資割合は、取得時において純資産総額の15%以内とします。</p> <p>外貨建資産への投資割合には制限を設けません。</p>
	損保ジャパン-T CW・MBSマザーファンド	<p>MBSの投資において、パススルー証券の元本と金利部分を分離して発行されたPOおよびIOの組入れは、取得時において各々純資産総額の5%以内とします。</p> <p>CMOの一種で、クーポンが一定の条件式に従って指標となる市場金利等の動きとは逆の方向に変動するインバース・フローターの組入れは、取得時において純資産総額の15%以内とします。</p> <p>外貨建資産への投資割合には制限を設けません。</p>
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収入及び売買益 (評価損益を含みず。) 等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は分配を行わないことがあります。</p>	

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「損保ジャパン-T CW・MBSオープン (DC年金) (Bコース)」は、信託約款の規定に基づき、2017年11月2日をもちまして繰上償還いたしました。ここに謹んで設定以来の運用状況と償還の内容をご報告申し上げます。今後とも当社商品につき引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。



損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル



<http://www.sjnk-am.co.jp/>

お問い合わせ先



クライアントサービス第二部 0120-69-5432

(受付時間 営業日の午前9時～午後5時)

**■最近10期の運用実績**

決 算 期	基 準 価 額			債 券 組 入 比 率	純 資 産 額
	(分配落)	税 分 配 込 金	期 騰 落 中 率		
3期（2008年11月10日）	円 9,464	円 0	% △12.7	% 96.2	百万円 97.5
4期（2009年11月9日）	9,188	0	△ 2.9	96.7	95.7
5期（2010年11月8日）	8,739	0	△ 4.9	96.4	86.4
6期（2011年11月8日）	8,622	0	△ 1.3	92.4	87.0
7期（2012年11月8日）	9,021	0	4.6	96.0	89.3
8期（2013年11月8日）	10,814	0	19.9	97.5	88.1
9期（2014年11月10日）	12,881	0	19.1	95.8	100.1
10期（2015年11月9日）	13,943	0	8.2	92.3	137.4
11期（2016年11月8日）	12,124	0	△13.0	95.7	111.9
（償 還 日） 2017年11月2日	（償還価額） 12,314.89		1.6	—	0

（注1）基準価額の騰落率は分配金込み。

（注2）基準価額及び分配金は1万円当たり（以下同じ）。

（注3）債券組入比率は、マザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

（注4）当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。

**■当期中の基準価額と市況等の推移**

年 月 日	基 準 価 額		債 券 組 入 比 率
	騰 落 率	率	
（期 首） 2016年11月8日	円 12,124	% —	% 95.7
11月末	12,816	5.7	96.0
12月末	13,195	8.8	95.2
2017年1月末	12,918	6.5	95.7
2月末	12,832	5.8	96.5
3月末	12,759	5.2	95.8
4月末	12,729	5.0	93.7
5月末	12,733	5.0	95.7
6月末	13,080	7.9	93.8
7月末	12,899	6.4	96.0
8月末	12,962	6.9	95.5
9月末	13,130	8.3	—
10月末	12,318	1.6	—
（償 還 日） 2017年11月2日	（償還価額） 12,314.89	1.6	—

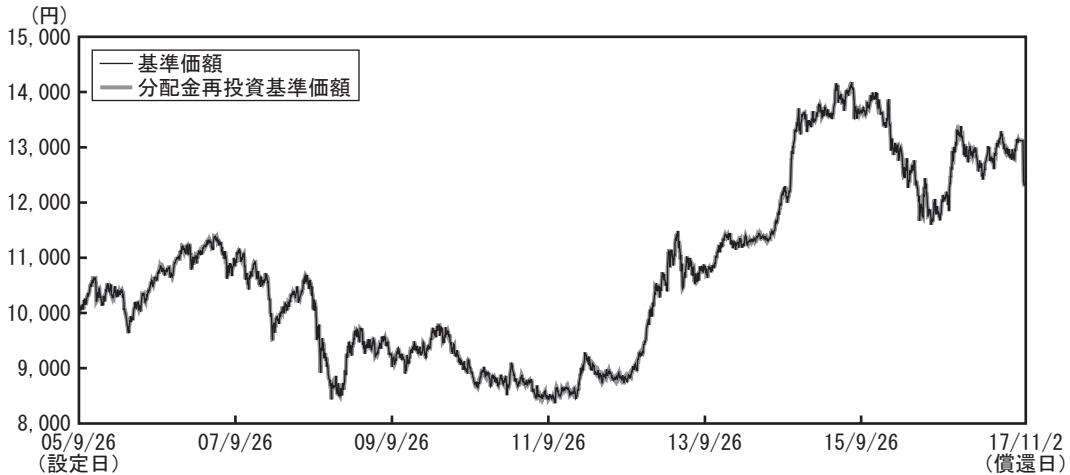
（注1）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

（注2）債券組入比率は、マザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

（注3）当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。

設定以来の運用経過（2005年9月26日（設定日）～2017年11月2日（償還日））

■ 基準価額の推移



設定日：10,000円

償還日：12,314円89銭（期中分配金合計0円）

騰落率：23.1%（分配金再投資基準価額ベース）

- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。

■ 基準価額の主な変動要因

（損保ジャパン・TCW・MBSオープン（DC年金）Bコース（為替ヘッジなし））

投資している損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンドが、実質的な投資対象であるMBSの金利収入等により上昇したことがプラスに寄与しました。

（損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド）（2005年9月26日～2017年11月1日）

期中の騰落率は+55.3%となりました。

保有していたMBSの金利収入等が主にプラスに寄与しました。

■投資環境（2005年9月26日～2017年11月1日※）

○米国MBS市場

MBS利回りは設定時対比で低下しました。

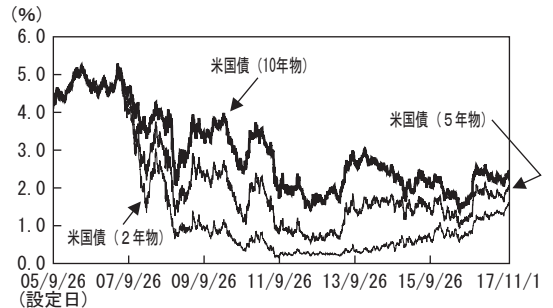
設定時から2006年にかけてFRB（米連邦準備理事会）による利上げが継続して行われたため、緩やかな上昇基調が続きました。

2007年以降のMBS利回りは、低所得者向けのサブプライム住宅ローンの貸し倒れ増加への懸念が高まったことや、FRBが大幅な利下げを継続して行ったことから低下基調となりました。また、2008年9月に大手投資銀行のリーマン・ブラザーズが経営破綻したことなどから世界的な金融危機が発生したため、大きく低下しました。その後も米国の失業率が悪化傾向にあるなど経済が低迷したほか、FRBによる量的金融緩和の実施により、MBS利回りの低下が続きました。

2012年後半から2013年にかけては米国経済の回復期待等から小幅に上昇しましたが、その後はFRBの金融緩和策縮小の動向や、インフレに繋がるとされるトランプ大統領の政策動向に左右され、MBS利回りは概ね横ばい圏で推移しました。

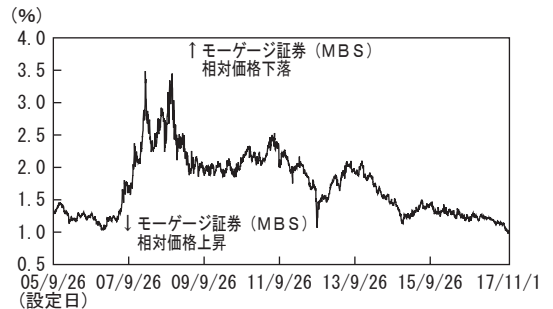
MBS利回りと米5年国債利回りのスプレッドについては、2008年のサブプライム住宅ローンへの懸念や世界的な金融危機発生時に大きく拡大する場面もありましたが、FRBによるMBSの購入等を背景に落ち着きを取り戻し、設定時対比でのスプレッドは縮小しました。

米国債利回りの推移



（出所：Bloomberg）

MBS（30年）と米国債（5年物）の利回り格差



（出所：Bloomberg）

（注）30年物MBSは期限前償還が発生するため、デフレーションが同期限の米国債と比べて短くなります。従って、5年物米国債と比較しております。

## ○為替市場

為替市場（ドル円）は設定時対比で小幅に円安ドル高が進行しました。

設定時から2006年にかけては概ね横ばいの動きとなりました。

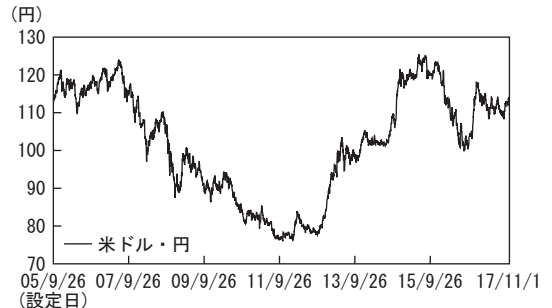
2007年には、米国で低所得者向けのサブプライム住宅ローンの貸し倒れに対する懸念が高まったことや、その後に発生した世界的な金融危機を背景に米国を中心とした世界経済の先行きが不安視され、円高ドル安が進みました。また、FRBが大幅な利下げを継続して行い日米金利差が縮小したことや、欧州の債務問題の懸念が高まる中で相対的に円が買われたことなどから、円高ドル安が継続して進みました。

2011年後半は、安倍政権が掲げる政策に金融緩和策が盛り込まれ、その後日銀が市場予想を上回る金融緩和策を実施したことをきっかけに、急速に円安ドル高が進みました。その後も米国の景気回復期待が高まったことや、2014年にFRBが量的金融緩和の縮小を決定したことなどから、円安ドル高基調が続きました。

2016年前半は、中国発の世界同時株安などから投資家のリスク回避志向が強まり、円高ドル安が進行しました。その後は、資源価格やFRBの利上げ動向、英国のEU（欧州連合）離脱問題、米国のトランプ大統領の政策実現の可能性などの材料を睨みながら、為替市場は上下する展開となりました。

※マザーファンドへの投資期間における投資環境を記載しています。

為替レートの推移



(出所：Bloomberg)

(注) 為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

## ■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドの運用につきましては、損保ジャパン－TCW・MBSマザーファンドの組入比率を高位に維持しました。その後、当ファンドの償還決定を受けてキャッシュ化を進めました。

### （損保ジャパン－TCW・MBSマザーファンド）（2005年9月26日～2017年11月1日）

当マザーファンドは米国ドルベースでベンチマークを上回るリターンを獲得を目指しました。当マザーファンドのデュレーションは、ベンチマークのデュレーションに対して、上下1.5年の範囲内に維持することを基本としており、金利低下が見込まれる局面でデュレーションを長期化する一方で、金利上昇が見込まれる局面ではデュレーションを短期化しました。その後、当ファンドの償還決定を受けてキャッシュ化を進めました。

## ■当該投資信託のベンチマークとの差異

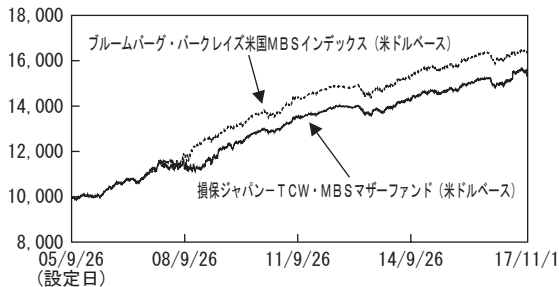
当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。以下ではマザーファンドとベンチマークとの差異についてご説明します。

### <損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンドとベンチマークとの差異>

「損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド」の米ドルベースの騰落率（2005年9月26日～2017年11月1日）は+53.3%となり、ベンチマークである「ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス」の米ドルベースの騰落率+64.2%を下回りました。

デュレーション要因等がマイナスに寄与しました。

### 損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンドとブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスの推移（米ドルベース）



(注) 「損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド」の基準価額（米ドルベース）とブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス\*（米ドルベース）を比較し、期首を10,000として委託会社にて指数化したものを使用しております。

マザーファンドの基準価額（米ドルベース）は、各基準日の基準価額を当日の為替レート（対顧客電信売買相場の仲値）を用いて委託会社が独自に換算したものを使用しております。

なお、各基準日のベンチマークは、基準価額の算出方法に合わせて各基準日の前営業日の数値を使用しております。

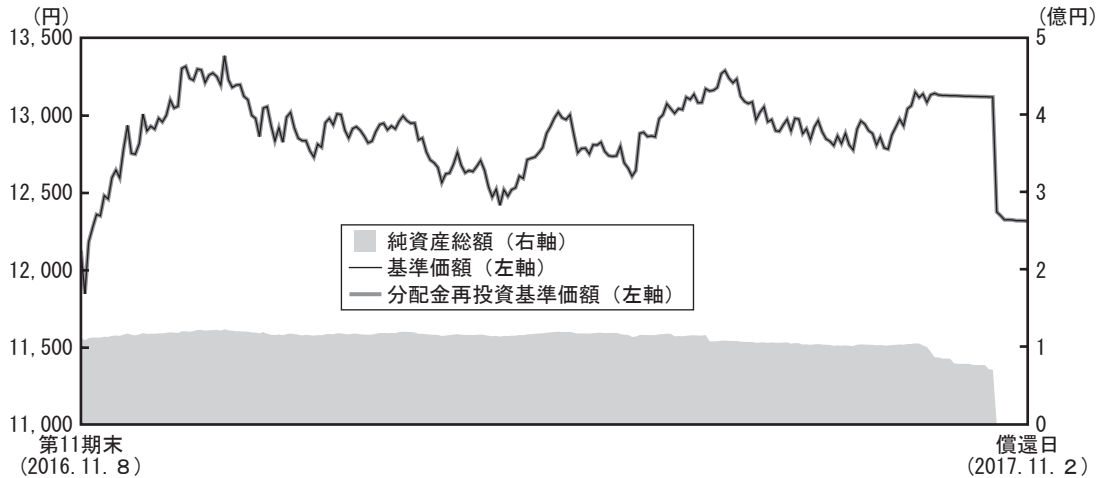
※ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスは、ブルームバーグが公表しているインデックスであり、エージェンシー発行のMBS市場のパフォーマンスをあらわします。ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社（以下「ブルームバーグ」と総称します。）またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

## ■分配金

収益分配金については、基準価額水準、商品設計等を総合的に勘案した結果、全運用期間を通じて無分配としました。

最終期の運用経過（2016年11月9日～2017年11月2日（償還日））

■基準価額の推移



期首：12,124円

償還時：12,314円89銭（期中分配金合計一円）

騰落率：1.6%（分配金再投資基準価額ベース）

- ・分配金再投資基準価額の推移は、2016年11月8日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。

■基準価額の主な変動要因

（損保ジャパン・TCW・MBSオープン（DC年金）Bコース（為替ヘッジなし））

投資している損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンドが為替要因等により上昇したことがプラスに寄与しました。

（損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド）（2016年11月9日～2017年11月1日）

期中の騰落率は+9.6%となりました。

円安ドル高が進んだことによる為替要因等が主にプラスに寄与しました。



■投資環境（2016年11月9日～2017年11月1日※）

○米国MBS市場

MBS利回りは前期末比で上昇しました。

期初に米大統領選でトランプ氏が勝利を収めたことで、同氏の財政政策による景気拡大期待や物価上昇観測が強まり、MBS利回りは大幅に上昇しました。その後もFRB（米連邦準備理事会）による利上げの決定などから、上昇基調が続きました。

2017年に入り、それまでの大幅上昇の反動や米国の利上げペースが減速するとの観測に加えて、北朝鮮を取り巻く地政学リスクの高まりなどから、MBS利回りは低下基調で推移しました。

9月以降は、FRBによる量的緩和縮小観測が高まったことや、トランプ政権による税制改革期待の高まりを受け、上昇しました。

MBS利回りと米国5年国債利回りの格差は、好調な米国住宅市況等を背景に、前期末比で縮小しました。

○為替市場

為替市場（ドル円）は円安ドル高が進行しました。

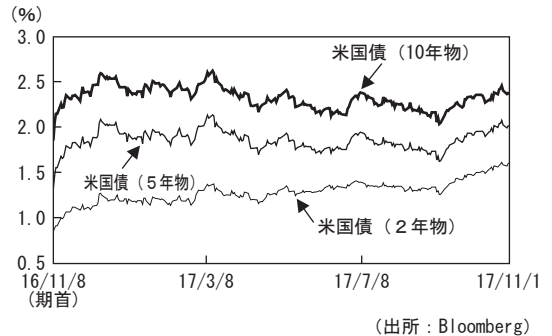
期初は、米大統領選におけるトランプ氏勝利等を背景とした米国金利の上昇に伴い、大きく円安ドル高が進みました。

2017年1月以降は、米国金利が低下傾向にあったことや、北朝鮮を取り巻く地政学リスクが高まる場面では相対的に円が買われたため、円高ドル安基調で推移しました。

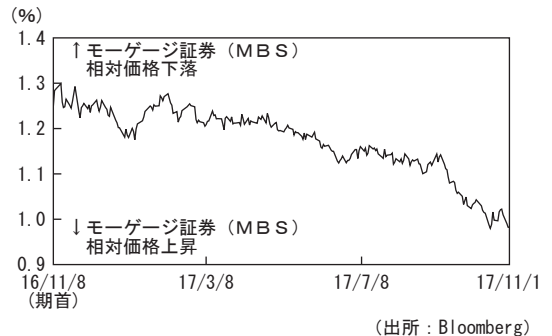
9月以降はFRBによる量的金融緩和縮小観測が高まったことや、トランプ政権による税制改革期待を背景とした米国金利の上昇などから、円安ドル高が進みました。

※マザーファンドへの投資期間における投資環境を記載しています。

米国債利回りの推移

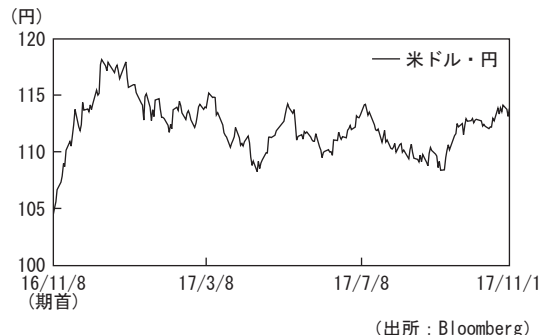


MBS（30年）と米国債（5年物）の利回り格差



(注) 30年物MBSは期限前償還が発生するため、デデュレーションが同期限の米国債と比べて短くなります。従って、5年物米  
国債と比較しております。

為替レートの推移



(注) 為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

## ■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドの運用については、損保ジャパン－TCW・MBSマザーファンドの組入比率を高位に維持しました。その後、当ファンドの償還決定を受けてキャッシュ化を進めました。

### （損保ジャパン－TCW・MBSマザーファンド）（2016年11月9日～2017年11月1日）

当マザーファンドは米国ドルベースで「ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス」を上回るリターンを獲得を目指しました。当マザーファンドのデュレーションは、「ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス」のデュレーションに対して、上下1.5年の範囲内に維持することを基本としております。デュレーションの推移については、総じてベンチマークに対して短めのデュレーションを維持しました。

その後、当ファンドの償還決定を受けてキャッシュ化を進めました。

## ■当該投資信託のベンチマークとの差異

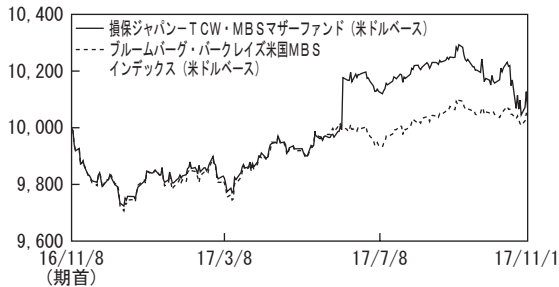
当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。以下ではマザーファンドとベンチマークとの差異についてご説明します。

### ＜損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンドとベンチマークとの差異＞

当期の損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンドの米ドルベースの騰落率（2016年11月9日～2017年11月1日）は+0.7%となり、ベンチマークである「ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス」の米ドルベースの騰落率+0.5%を上回りました。

MBSの銘柄選択要因等が、プラスに寄与しました。

### 損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンドとブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスの推移（米ドルベース）



(注) 「損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド」の基準価額（米ドルベース）とブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス\*（米ドルベース）を比較し、期首を10,000として委託会社にて指数化したものを使用しております。

マザーファンドの基準価額（米ドルベース）は、各基準日の基準価額を当日の為替レート（対顧客電信売買相場の仲値）を用いて委託会社が独自に換算したものを使用しております。

なお、各基準日のベンチマークは、基準価額の算出方法に合わせて各基準日の前営業日の数値を使用しております。

※ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスは、ブルームバーグが公表しているインデックスであり、エージェンシー発行のMBS市場のパフォーマンスをあらわします。ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社（以下「ブルームバーグ」と総称します。）またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

■分配金

該当事項はありません。

<償還を迎えて>

当ファンドは、2017年11月2日をもちまして信託期間を終了し、繰上償還とさせていただくこととなりました。受益者のみなさまのご愛顧に心より御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

**■ 1万口当たりの費用明細**

項目	最終期		項目の概要
	(2016年11月9日～2017年11月2日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	172円	1.338%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率（年率） × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は12,885円です。
（投信会社）	（ 96）	（0.744）	ファンドの運用の対価
（販売会社）	（ 68）	（0.531）	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	（ 8）	（0.064）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	11	0.088	(b) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
（保管費用）	（ 10）	（0.080）	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
（監査費用）	（ 1）	（0.007）	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
（その他）	（ 0）	（0.000）	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	184	1.426	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■親投資信託受益証券の設定、解約状況

（2016年11月9日から2017年11月2日まで）

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド	千口 2,349	千円 5,170	千口 56,480	千円 125,950

（注1）単位未満は切捨て。

（注2）金額は受渡代金。

■利害関係人との取引状況（2016年11月9日から2017年11月2日まで）

当ファンド及びマザーファンドにおける当期中の利害関係人との取引はございません。

■組入資産の明細

○親投資信託残高

（2017年11月2日現在）

	期 首（前期末）	償 還 時	
	口 数	口 数	評 価 額
損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド	千口 54,130	千口 —	千円 —

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

（2017年11月2日現在）

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 751	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	751	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2017年11月2日現在)

項 目	当 期 末
a 資産	751,450円
コール・ローン等	751,450
b 負債	657,565
未払信託報酬	657,530
未払利息	8
その他未払費用	27
c 純資産総額(a - b)	93,885
元本	76,237
償還差損益金	17,648
d 受益権総口数	76,237口
1万口当たり償還価額(c / d)	12,314円89銭

(注1) 信託財産に係る期首元本額92,355,394円、期中追加設定元本額12,201,897円、期中一部解約元本額104,481,054円

(注2) 償還時における1口当たりの純資産総額 1.231489円

■損益の状況

(2016年11月9日から2017年11月2日まで)

項 目	当 期
a 配当等収益	△ 788円
受取利息	1,702
支払利息	△ 2,490
b 有価証券売買損益	1,447,873
売買益	5,055,234
売買損	△3,607,361
c 信託報酬等	△1,453,660
d 当期損益金(a + b + c)	△ 6,575
e 前期繰越損益金	74
f 追加信託差損益金	24,149
(配当等相当額)	( 26,928)
(売買損益相当額)	(△ 2,779)
g 合計(d + e + f)	17,648
償還差損益金(g)	17,648

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

(注3) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 当ファンドが支払った損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンドの運用の指図に係わる権限を委託するために要した費用は366,679円です。(2016年11月9日から2017年11月2日まで)

**■投資信託財産運用総括表**

信託期間	投資信託契約締結日	2005年9月26日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2017年11月2日		資産総額	751,450円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	657,565円
受益権口数	500,000口	76,237口	△423,763口	純資産総額	93,885円
元本額	500,000円	76,237円	△423,763円	受益権口数	76,237口
				1万口当たり償還金	12,314円89銭
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たりの分配金	
				金額	分配率
	円	円	円	円	%
第1期	93,628,510	100,701,269	10,755	0	—
第2期	102,934,922	111,624,907	10,844	0	—
第3期	103,114,606	97,592,461	9,464	0	—
第4期	104,214,688	95,752,785	9,188	0	—
第5期	98,904,673	86,429,008	8,739	0	—
第6期	100,933,385	87,024,683	8,622	0	—
第7期	99,072,310	89,370,487	9,021	0	—
第8期	81,475,064	88,110,254	10,814	0	—
第9期	77,784,154	100,190,411	12,881	0	—
第10期	98,605,443	137,485,590	13,943	0	—
第11期	92,355,394	111,971,613	12,124	0	—

**■償還金のお知らせ**

1万口当たりの償還金（税引前）	12,314円89銭
-----------------	------------

**■お知らせ**

- 親投資信託の運用上のベンチマークの名称変更にもない、投資信託約款に所要の変更を致しました（2016年12月20日）。
- 信託財産留保額を撤廃するため、投資信託約款に所要の変更を致しました（2017年9月21日）。



# 損保ジャパン－TCW・MBSマザーファンド

## 繰上償還 運用報告書

最終期（償還日 2017年11月1日）

<計算期間 2016年11月9日～2017年11月1日>

損保ジャパン－TCW・MBSマザーファンドの設定以来の運用状況と償還の内容をご報告申し上げます。

### ■当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	1998年10月30日から2017年11月1日まで（当初、無期限）
運用方針	信託財産の中長期的成長を目指して、積極的な運用を行います。 主として米国ドル建のMBSに分散投資し、米国ドルベースでブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスを上回る収益率の獲得およびリスクの分散を図ることを目指します。 運用にあたっては、TCW INVESTMENT MANAGEMENT COMPANY（米国）に米国ドル建MBSの運用指図に関する権限を委託します。
主要投資対象	米国ドル建のMBS
主な組入制限	MBSの投資において、パススルー証券の元本と金利部分を分離して発行されたPOおよびIOの組入れは、取得時において各々純資産総額の5%以内とします。 CMOの一種で、クーポンが一定の条件式に従って指標となる市場金利等の動きとは逆の方向に変動するインバース・フローターの組入れは、取得時において純資産総額の15%以内とします。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

■最近10期の運用実績

<参考>基準価額とベンチマーク比較(米ドルベース)

決算期	基準価額		債券 組入比率	純資産 総額	基準価額(米ドルベース) (設定日=10,000)		ベンチマーク (設定日=10,000)	
	円	騰落率			騰落率	騰落率		
10期(2008年11月10日)	14,281	% △11.6	96.7	百万円 5,287	16,772	% 0.6	17,498	% 6.7
11期(2009年11月9日)	14,049	△1.6	97.1	3,304	18,200	8.5	19,240	10.0
12期(2010年11月8日)	13,536	△3.7	97.4	2,361	19,409	6.6	20,448	6.3
13期(2011年11月8日)	13,534	△0.0	93.2	1,741	20,199	4.1	21,321	4.3
14期(2012年11月8日)	14,353	6.1	97.4	1,496	20,909	3.5	22,034	3.3
15期(2013年11月8日)	17,455	21.6	98.5	1,446	20,701	△1.0	21,923	△0.5
16期(2014年11月10日)	21,113	21.0	96.7	1,306	21,508	3.9	22,896	4.4
17期(2015年11月9日)	23,183	9.8	93.2	1,240	21,903	1.8	23,329	1.9
18期(2016年11月8日)	20,394	△12.0	97.1	890	22,732	3.8	24,222	3.8
(償還日) 2017年11月1日	(償還価額) 22,360.9	9.6	—	425	22,879	0.7	24,341	0.5

(注1) 基準価額は1万口当たり(以下同じ)。

(注2) 当ファンドのベンチマークはブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス<sup>®</sup>(米ドルベース)を使用しております。

(注3) 当ファンドのベンチマークはブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス(米ドルベース)を使用しているため基準価額(円ベース)との比較は行っておりません。

参考として、ファンド設定日を10,000として委託会社にて指数化した当ファンドの米ドルベースの基準価額と米ドルベースのブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスを掲載しております。

※ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスは、ブルームバーグが公表しているインデックスであり、エージェンシー発行のMBS市場のパフォーマンスをあらわします。ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ビーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ビーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。(以下同じ)

■当期中の基準価額と市況等の推移

<参考>基準価額とベンチマーク比較(米ドルベース)

年月日	基準価額		債券 組入比率	基準価額(米ドルベース) (設定日=10,000)		ベンチマーク (設定日=10,000)	
	円	騰落率		騰落率	騰落率		
(期首) 2016年11月8日	20,394	% —	97.1	22,732	% —	24,222	% —
11月末	21,586	5.8	96.8	22,369	△1.6	23,836	△1.6
12月末	22,253	9.1	97.0	22,255	△2.1	23,729	△2.0
2017年1月末	21,809	6.9	97.3	22,324	△1.8	23,761	△1.9
2月末	21,686	6.3	97.3	22,445	△1.3	23,899	△1.3
3月末	21,589	5.9	96.9	22,418	△1.4	23,871	△1.4
4月末	21,562	5.7	95.3	22,571	△0.7	24,041	△0.7
5月末	21,596	5.9	97.2	22,674	△0.3	24,197	△0.1
6月末	22,214	8.9	94.9	23,107	1.6	24,151	△0.3
7月末	21,929	7.5	97.1	23,151	1.8	24,222	0.0
8月末	22,065	8.2	96.9	23,280	2.4	24,375	0.6
9月末	22,378	9.7	—	23,126	1.7	24,357	0.6
10月末	22,361	9.6	—	23,021	1.3	24,343	0.5
(償還日) 2017年11月1日	(償還価額) 22,360.9	9.6	—	22,879	0.7	24,341	0.5

(注1) 騰落率は期首比。

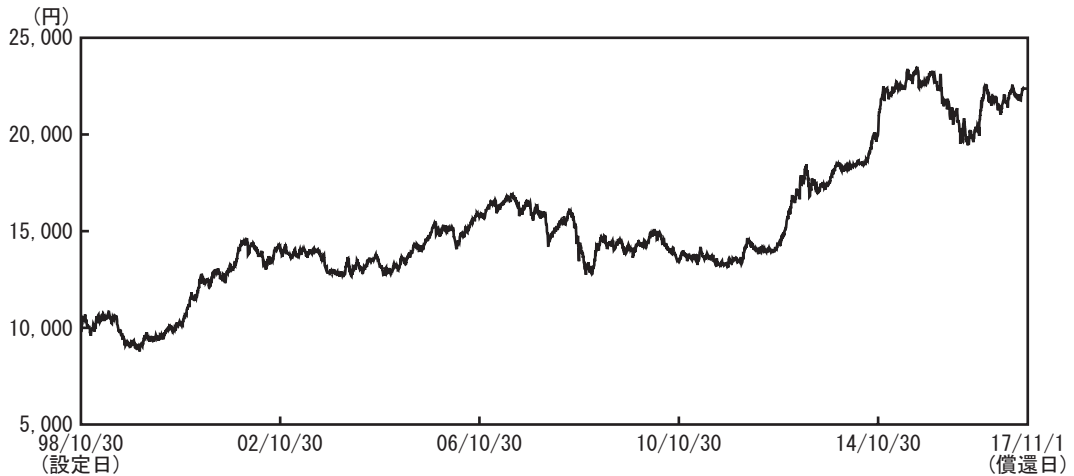
(注2) 当ファンドのベンチマークはブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス(米ドルベース)を使用しております。

(注3) 当ファンドのベンチマークはブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス(米ドルベース)を使用しているため基準価額(円ベース)との比較は行っておりません。

参考として、ファンド設定日を10,000として委託会社にて指数化した当ファンドの米ドルベースの基準価額と米ドルベースのブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスを掲載しております。

設定以来の運用経過（1998年10月30日（設定日）～2017年11月1日（償還日））

■ 基準価額の推移



設定日：10,000円  
 償還日：22,360円90銭  
 騰落率：123.6%

■ 基準価額の主な変動要因

期中の騰落率は+123.6%となりました。

保有していたMBSの金利収入等が主にプラスに寄与しました。

## ■投資環境

### ○米国MBS市場

MBS利回りは、設定時対比で低下しました。

設定時から2003年6月までのMBS利回りは、米国を中心にIT関連企業の株価が大幅に下落したことや、2001年9月に米国で発生した同時多発テロ事件に伴う地政学リスクの高まりに加えて、FRB（米連邦準備理事会）による利下げの継続などを背景に、低下しました。

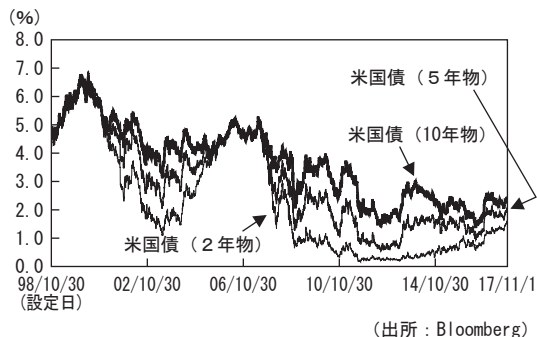
その後は雇用関連指標の改善などで米国の経済に回復の兆しが見られたことや、2004年から2006年にかけてFRBによる利上げが継続して行われたため、緩やかな上昇基調が続きました。

2007年以降のMBS利回りは、低所得者向けのサブプライム住宅ローンの貸し倒れ増加への懸念が高まったことや、FRBが大幅な利下げを継続して行ったことから低下基調となりました。また、2008年9月に大手投資銀行のリーマン・ブラザーズが経営破綻したことなどから世界的な金融危機が発生したため、大きく低下しました。その後も米国の失業率が悪化傾向にあるなど経済が低迷したほか、FRBによる量的金融緩和の実施により、MBS利回りの低下が続きました。

2012年後半から2013年にかけては米国経済の回復期待等から小幅に上昇しましたが、その後はFRBの金融緩和と政策縮小の動向や、インフレに繋がるとされるトランプ大統領の政策動向に左右され、当ファンドの償還を迎えるまで、概ね横ばい圏で推移しました。

MBS利回りと米5年国債利回りのスプレッドについては、2008年のサブプライム住宅ローンへの懸念や世界的な金融危機発生時に大きく拡大する場面もありましたが、FRBによるMBSの購入等を背景に落ち着きを取り戻し、設定時対比でのスプレッドは縮小しました。

米国債利回りの推移



MBS（30年）と米国債（5年物）の利回り格差



(注) 30年物MBSは期限前償還が発生するため、デュレーションが同期限の米国債と比べて短くなります。従って、5年物米国債と比較しております。

## ○為替市場

為替市場（ドル円）は設定時対比で円高ドル安が進行しました。

設定時から2001年にかけては、日銀によるゼロ金利政策の実施などを背景に、円安ドル高が進みました。しかしその後、米国を中心としたIT関連企業の株価が大幅に下落したことや、米国で同時多発テロが発生したことなどからドルが売られた一方で、安全資産とされる円が買われたため円高ドル安が進みました。

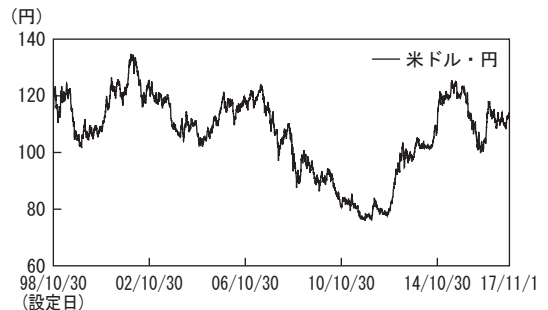
2004年には、FRB（米連邦準備理事会）が利上げを開始した一方で、日銀によるゼロ金利政策の継続を背景とした日米金利差や、米国の景気回復期待などから、円安ドル高が進みました。

2007年には、米国で低所得者向けのサブプライム住宅ローンの貸し倒れに対する懸念が高まったことや、その後に発生した世界的な金融危機を背景に米国を中心とした世界経済の先行きが不安視され、円高ドル安が進みました。また、FRBが大幅な利下げを継続して行い日米金利差が縮小したことや、欧州の債務問題の懸念が高まる中で相対的に円が買われたことなどから、円高ドル安が継続して進みました。

2011年後半は、安倍政権が掲げる政策に金融緩和策が盛り込まれ、その後日銀が市場予想を上回る金融緩和策を実施したことをきっかけに、急速に円安ドル高が進みました。その後も米国の景気回復期待が高まったことや、2014年にFRBが量的金融緩和の縮小を決定したことなどから、円安ドル高傾向が続きました。

2016年前半は、中国発の世界同時株安などから投資家のリスク回避志向が強まり、円高ドル安が進行しました。その後は、資源価格の変動、英国のEU（欧州連合）離脱問題、FRBの利上げ動向、米国のトランプ大統領の政策実現の可能性などの材料を睨みながら、為替市場は上下する展開となりました。

為替レートの推移



（出所：Bloomberg）

（注）為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

## ■当該投資信託のポートフォリオ

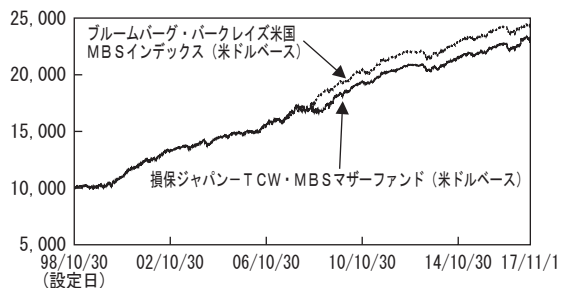
当マザーファンドは米国ドルベースでベンチマークを上回るリターンを獲得を目指しました。当マザーファンドのデュレーションは、ベンチマークのデュレーションに対して、上下1.5年の範囲内に維持することを基本としており、金利低下が見込まれる局面でデュレーションを長期化する一方で、金利上昇が見込まれる局面ではデュレーションを短期化しました。その後、当ファンドの償還決定を受けてキャッシュ化を進めました。

## ■当該投資信託のベンチマークとの差異

「損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド」の米ドルベースの騰落率（1998年10月30日～2017年11月1日）は+128.8%となり、ベンチマークである「ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス」の米ドルベースの騰落率+143.4%を下回りました。

デュレーション要因等がマイナスに寄与しました。

### 損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンドとブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスの推移（米ドルベース）



(注) 「損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド」の基準価額（米ドルベース）とブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス\*（米ドルベース）を比較し、期首を10,000として委託会社にて指数化したものを使用しております。

マザーファンドの基準価額（米ドルベース）は、各基準日の基準価額を当日の為替レート（対顧客電信売買相場の仲値）を用いて委託会社が独自に換算したものを使用しております。

なお、各基準日のベンチマークは、基準価額の算出方法に合わせて各基準日の前営業日の数値を使用しております。

※ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスは、ブルームバーグが公表しているインデックスであり、エージェンシー発行のMBS市場のパフォーマンスをあらわします。ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ビーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ビーおよびその関係会社（以下「ブルームバーグ」と総称します。）またはブルームバーグのライセンスは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

## <償還を迎えて>

当ファンドは、2017年11月1日をもちまして信託期間を終了し、繰上償還とさせていただきますこととなりました。受益者のみなさまのご愛顧に心より御礼を申し上げます。誠にありがとうございます。

## ■ 1万口当たりの費用明細

(2016年11月9日から2017年11月1日まで)

項 目	
そ の 他 費 用	25円
(保 管 費 用)	(25)
(そ の 他)	( 0)
合 計	25

(注) 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については12ページ(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

## ■ 売買及び取引の状況

### ○ 公社債

(2016年11月9日から2017年11月1日まで)

		買 付 額	売 付 額
外 国	アメリ カ	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル
	国 債 証 券	4,984	6,511 ( -)
	特 殊 債 券	25,413	31,263 ( 722)

(注1) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。  
 (注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。  
 (注3) 社債券には新株予約権付社債(転換社債)は含まれておりません。  
 (注4) 単位未満は切捨て。

## ■ 主要な売買銘柄

### ○ 公社債

(2016年11月9日から2017年11月1日まで)

最 期		終 期	
買 付	金 額	売 付	金 額
銘 柄	銘 柄	銘 柄	銘 柄
	千円		千円
US TREASURY N/B 1.625% 2022/08/31	234,503	US TREASURY N/B 1.625% 2022/08/31	233,561
FNCL 4.5 8/17 2047/08/25	88,221	US TREASURY N/B 0.75% 2018/08/31	141,052
FNCL 4.5 9/17 2047/09/25	87,068	FNCL 4.5 9/17 2047/09/25	89,122
FNCL 4.5 7/17 2047/07/25	85,104	FNCL 4.5 8/17 2047/08/25	87,150
FNCL 4.5 4/17 2047/04/25	84,502	FNCL 4.5 6/17 2047/06/25	85,225
FNCL 4.5 5/17 2047/05/25	84,169	FNCL 4.5 7/17 2047/07/25	84,770
FNCL 4.5 6/17 2047/06/25	83,947	FNCL 4.5 4/17 2047/04/25	84,323
FNCL 4.5 10/17 2047/10/25	82,939	FNCL 4.5 5/17 2047/05/25	84,099
US TREASURY N/B 1.5% 2019/01/31	77,125	FNCL 4.5 10/17 2047/10/25	82,890
FNCL 4.5 3/17 2045/03/25	75,505	FNCL 2.5 12/16 2031/12/25	82,847

(注1) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。  
 (注2) 単位未満は切捨て。  
 (注3) 邦貨換算金額は月中の取引を各月末のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

## ■ 利害関係人との取引状況 (2016年11月9日から2017年11月1日まで)

当ファンドにおける当期中の利害関係人との取引はございません。

## ■組入資産の明細

最終期末（2017年11月1日現在）における当該事項はございません。

## ■投資信託財産の構成

（2017年11月1日現在）

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 425,586	100.0 %
投 資 信 託 財 産 総 額	425,586	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

## ■特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2017年11月1日現在）

項 目	償 還 時
a 資産	425,586,545円
コール・ローン等	425,586,545
b 負債	2,682
未払利息	1,165
その他未払費用	1,517
c 純資産総額(a - b)	425,583,863
元本	190,325,000
償還差損益金	235,258,863
d 受益権総口数	190,325,000口
1万口当たり償還価額(c / d)	22,360円90銭

（注1）信託財産に係る期首元本額436,638,481円、期中追加設定元本額7,262,754円、期中一部解約元本額253,576,235円

（注2）期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託ごとの元本の内訳

損保ジャパン・TCW・MBSオープンAコース（為替ヘッジあり） 16,868,326円

損保ジャパン・TCW・MBSオープンBコース（為替ヘッジなし） 58,849,936円

損保ジャパン・TCW・MBSファンド（毎月分配型） 63,880,808円

スター・マンズリープラス 50,703,583円

損保ジャパン・TCW・MBSオープン（DC年金）Bコース（為替ヘッジなし） 22,347円

（注3）償還時における1口当たりの純資産総額 2.236090円

## ■損益の状況

（2016年11月9日から2017年11月1日まで）

項 目	最 終 期
a 配当等収益	37,344,100円
受取利息	19,762,713
その他収益金	17,642,216
支払利息	△ 60,829
b 有価証券売買損益	45,505,132
売買益	74,771,304
売買損	△ 29,266,172
c 信託報酬等	△ 940,752
d 当期損益金(a + b + c)	81,908,480
e 前期繰越損益金	453,827,104
f 解約差損益金	△309,153,967
g 追加信託差損益金	8,677,246
h 合計(d + e + f + g)	235,258,863
償還差損益金(h)	235,258,863

（注1）有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

（注2）信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

（注3）解約差損益金とは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

（注4）追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## ■お知らせ

○運用上のベンチマークの名称変更にもない、投資信託約款に所要の変更を致しました（2016年12月20日）。